

Case Study for English 4 skills CBT

 *Progress in Japan*

Provided by  **Pearson**

Interview for High School teachers

興南学園様の取り組みと実践事例

2018年7月1日

興南学園様 Progress 実践事例のインタビュー*

教育開発出版株式会社

*以下は2018年6月15日、沖縄県にある興南学園の英語科：宮城 歩先生にインタビューした際の記録です。先生のご協力に、この場をお借りして御礼申し上げます。

<Q1. 興南学園様の取り組み、方針を教えてくださいませんか？>

学園としての理念は大きく分けて2つあります。まず一つ目は、校名の通り「南を興す」人材を育成することです。沖縄県から日本、世界と、生徒たちが活躍の場を広げられるようにサポートしています。二つ目は、急速な科学文明の発達・変化と複雑多岐を極める世界情勢に対応できる人材を育成することです。

具体的な取り組みとしては、平成25年からのiPad導入や学内のWi-fi環境の整備、平成29年からChromebookの導入など、新しいことを積極的に取り入れるようにしています。これも、最新の技術を活用し、多方面にアンテナを張ることで、急速な社会の変化に対応していけるようにと考えてのことです。また授業の場面でも、1対40の集団授業だけではできないことが、タブレットなどのデバイスを用意することでかなり幅広い活動ができるようになってきています。

特にこれから大学入試改革や指導要領の改訂など、教育の大きな転換期を迎えます。英語4技能の指導実践に関しては、個々に対応したスピーキングの技能を含むアセスメントを行えるという点で、Pearson社が提供するProgress*を平成29年度より高校1年生対象に一部のコースで導入しました。

(Progressは英語のオンラインテストです。概要に関してはP4の補足をご覧ください)

<次ページに続く⇒>



沖縄県 那覇市



【学校法人興南学園 興南中学校・高等学校】

<Q2. Progress を導入いただいてからの感想をお聞かせください。>

最初に Progress を見たとき、かなり細かいスコアのレンジがあるところが良いと思いました。クラス内には様々な学力レベルの生徒がいます。個々のレベルに合わせランダムに変化する出題形式は、どの生徒にとってもチャレンジができる点で評価できます。レベルや出題内容の決まった模試などと違い、生徒に充実感を持ってもらえるのが良いですね。

初回試験実施後のアンケートを見ても、「楽しかった、なんかすごいものが来た」「新しい時代の試験を受けている感じがした」など肯定的な意見が多かったです。もちろん 約 1 時間 PC に向かって受けることにも慣れておらず、疲れてしまう生徒もいたので、長時間の画面操作に慣れてもらうための工夫や支援は必要かもしれません。これらの指導は今後の教育改革に向けて、重要な支援になると考えています。

Progress は年 3 回の受験がセットで、初回は 3 月でした。次は 7 月の実施を予定しています。この調子で、生徒たちに習慣化させていきたいです。



【受験している実際の様子】



【Progress で出題される問題一例】

Listening&Speaking Part : 口頭で絵を説明する課題

<Q3. 普段の授業と Progress 受験との関連性についてはいかがですか？>

普段英語の授業ではスピーキングを重視した活動も行いますが、中心となるのは従来通りの基礎トレーニングです。Progress を導入したことで、授業以外でアウトプットの場所を年 3 回設けることができ、生徒たちは「これまでに学んできた英語を様々な場面で実際に活用すること」を実感しやすくなっており、モチベーションの喚起にもつながっています。特にスピーキングセクションの問題では、絵や写真を口頭で描写しなければならず、自分の持っている英語力を全て出しきらないといけないほどの意識の高まりが感じられ、良い刺激になっているのではないのでしょうか。

高校のコミュニケーション英語の教科書では、文化的な題材から科学技術・AI など、扱う内容がどんどん深くなっていきますが、Progress の場合は身近なことについて話すことができる、周りのものを描写できるといった、基礎段階の英語表現力がどの程度身につけているのかをまずは確認することができます。成績の表示も 4 技能+文法・語彙の「6 項目」で細かく表示されるので、技能領域と知識領域の習熟バランスも把握できます。さらに CEFR や TOEFL iBT、IELTS 等のスコア換算表が用意されている (GSE という CEFR 準拠の尺度を介して他のテストと比較ができる) ので、英語力の高い生徒には 6 段階に分かれているレベルから最適なものを選び、受験させることで、さらに高い目標に向けて学習のモチベーションを向上させるものになるでしょう。生徒たちの英語力を向上させることが英語教師の役目ですが、この Progress で測定した結果というのは、教師の授業内容や展開について、今後の方針を考える上での指標にもなり、授業改善にも大いに役立つものだと思います。

補足：Progress の概要に関する資料

60分でスピーディな受験ができるProgress

約60分で「4技能」+「文法・語彙」を測定し、通常5分以内でスコアレポート表示。
Pearsonの先端技術を取り入れた【Progress】だから実現しました！

試験時間約60分 5min スコア返却通常5分以内

自宅受験も可能!

Point 1

4技能+文法・語彙を測定

Progress は「読む・書く・話す・聞く」の4技能に、「文法・語彙」の2つを加えて、計6技能で受験者の英語力を測定します。

これは、上記4技能が「文法・語彙」の理解の上になり立つもの、と考えているからです。

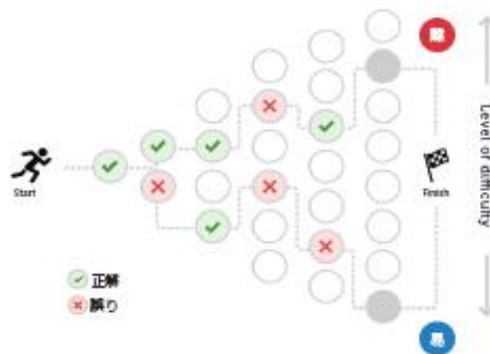


Point 2

コンピュータ受験(アダプティブ方式)

Adaptiveの意味は「適応」。つまり受験者一人一人に合わせた問題がコンピュータにより選ばれます。

Progressは、正解すれば難しく、間違えば易しい問題を与えることでより正確にレベルを絞り込んでいきます。



Point 3

CEFR完全準拠のスコア(Global Scale of English)

Progressのスコアリングに採用されている指標で、言語運用能力の参照枠CEFRに完全に準拠しています(Pearsonが独自開発)。CEFRを10~90の81段階に細分化し、Can-Doリストも6技能別に詳細な作りこみを行っています。

